

Discovery DentalAsia 上海デンテク 2015 報告

岡野 友宏 (ADF 専務理事)

上海デンテク時のツアーは原則として Discovery DentalAsia として開催します。できるだけ多くの先生方に参加して頂き、展示会の参加のみならず、施設見学をできるようにします。今回は上海デンテクの視察に加えて、大学訪問は上海交通大学第九人民医院、また企業の工場見学は蘇州にあるG C 歯科有限公司としました。さらに個人開業医として(株)クラレノリタケデンタルから紹介のあった清木歯科医院を見学しました。

上海デンテク (第 19 回中国国際口腔器材展覧会・学術検討会) は例年通り、上海世博展覽館を会場として 10 月 21 日から 24 日まで開催されました。展示場では地元の中国企業をはじめ、海外企業やその中国ディーラーによる商品展示で例年通り、賑わっていました。会場では同済大学の王佐林院長が議長を務める上海市医師会・口腔医師分会の年次会が開催されました。出席した方は 50 名余りでしょうか。引き続いての口腔技術講座では 3 講演があり、その一つを生田先生が担当しました。生田先生は歯周内科学研究会の推進する薬物治療についてその臨床例を多数示しながら講演されました。先生は英語のスライドを用いて英語で講演されましたが、同済大学の張磊先生が中国に逐時通訳をされましたので、皆さんは理解できたと思います。他の講演でもそうでしたが、講演に対する質疑応答がありませんでしたので、その理解の程度を知ることはできませんでした。



左上から右下へ：上海デンテク会場での集合写真、会場の様子（3枚）



左上から右下へ：会場の様子（2枚）、上海市口腔医師の会会場、同済大学・王佐林教授の挨拶、生田先生の通訳・張磊先生との事前打ち合わせ、生田先生の講演

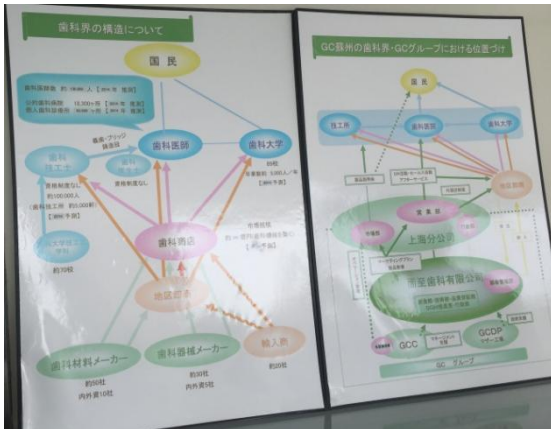
上海交通大学第九人民医院への訪問です。去年は同済大学でしたが、こうした大学病院訪問は相手方に一定の負担をかけることになりますので、とくに依頼することになります。病院内部は見る機会はなかなか、ないものです。今回は口蓋裂の形成手術を行っている王国民教授に特にお願いして実現しました。王先生は昭和大学・道健一先生のもとで研究し学位をとった方です。まず、応接室に案内されました。沈国芳先生と邱蔚六先生が出迎えてくれました。沈教授は口腔顔面外科を担当し、病院長です。邱蔚六先生にお会いできたのにはびっくりしました。先生は第九人民医院の院長であつたときに長崎大学を訪問され、

お会いして以来 30 年ぶりでした。口蓋裂の手術では世界的権威であり、いまは中国口腔医学会の名誉会長です。王先生の話では現在、口蓋裂の手術は年間 2,000 例、患者は中国各地 93%、外国 4%、上海 3%とのことで、相変わらず、世界有数の手術数を誇っています。術後 3 日目には退院させるとのこと、そのためには出血の少ない上手な手術が必須とのことでした。その後、病院内を見学しました。一日の外来患者数は 12,000 名、歯科だけでも 4,000 名だそうです。



左上から右下へ：病院前での集合写真、病院内部の様子、診療室、準備室、沈病院長・邱中華口腔医学会名誉会長・王国民教授らとの会談

企業の海外工場見学は昨年、バンコク郊外のモリタ関連会社の **Siamdent** を訪問しましたが、評判が非常に良かったこともあり、今回は当初から江藤先生が **GC** と交渉し蘇州工場見学が実現しました。蘇州工場では岡田総経理には直々にお迎え頂き、会社について丁寧なご説明を頂きました。また、技術部次長の万宗元様と課長の島田様には工場を案内して頂きました。参加した歯科医の先生方からの数多くの質問等にも応えて頂きました。



GC 蘇州工場にて、岡田総経理、中国の歯科事情、製品群、会社の方との懇談、集合写真

個人医院の訪問先の清木口腔問診部は上海市静安区のビルの中にある大規模な歯科医院です。筆者は残念ながら講演会の都合で同行できませんでしたが、設備の充実した医院と

のことでした。



清木歯科医院、案内して頂いた上海クラレの王先生と院長の沈宏嘉先生。

清木歯科を見学した鈴木彰先生（神奈川県海老名市ベル歯科医院院長）の感想は以下のようでした。「中国の歯科診療は品質的にも患者層も幅が広い。その中で、清木歯科は富裕層向けと高品質診療を行う診療所で、その設備レベルは、日本の高品質診療所に劣らない。中国でも消毒・滅菌に関して行政から課せられる基準レベルが高いが、清木歯科はその基準を満たすように診療を組み立てている。手抜きや劣悪な設備で基準を満たさない診療所も多いだろうが、それを見て中国の基準が低いと決めつけるのは誤りだろう。意欲のある診療所は日本の診療所を超えるレベルにあるともいえる。診療内容は見学では分からなかったが、インプラントなど高単価の治療のみを行う診療所ではないように思えた。治療後のメンテナンスで来院する患者が多く、ユニット数を増加（設備増強）していることから、「治療型」から「メンテナンス型」へ移行していると思われる。患者への説明ツール、設備等を見た範囲では、口腔内細菌をコントロールするメンテナンスはまだ行われていないだろう。私（鈴木）が行っているのと同じ方向性の診療が、すでに上海で行われつつあることを知り、中国の歯科診療を日本より遅れていると決めつけるのは誤りであると認識した。近い将来、清木歯科もう蝕、歯周病の発症、進行抑制のための口腔内細菌コントロールを実行するようになるかもしれない。結論として、中国の歯科診療を十把一絡げにするのではなく、上中下に分けて理解する必要がある、今後日本の歯科医療が接点を持つ場合、どの層をターゲットにするか明確にするべきだろう。」

以上、今年の上海ツアーはまことに実り多いものになったと確信いたします。